

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 堂 鼻 康 晴

1. 授業名 『異文化理解』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 3 限
4. 場 所 北棟3階 CALL教室
5. 対 象 2年10組 17名(普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 CALL機器を活用した英語音声的特徴の習得およびスキットの音読・暗誦・表現活動
7. 教 材 『英語リピーティング入門』(アルク) ほか
8. 背 景

(1) 教材観

本教材は、音声情報を細大漏らさず聞き取り、話者の話し方(リズム、イントネーション、発音、間の取り方など)をそっくりまねて、自分が実際に話しているつもりになって音読する活動、所謂「リピーティング」による英語力の向上を図るものである。本時では日本人が軽視しがちな[ou]の音に焦点を当てた音読・暗誦活動を行なう。

(2) 生徒観

中学時代から英語を得意とする生徒が多く、基礎学力の定着が見られ学習意欲は高い。授業においても、音読活動やペア活動にも積極的に取り組む明るい雰囲気クラスである。ただ、ネイティブのような完璧な英語習得を目指す生徒がいる一方で、コミュニケーションが取れば完璧でなくてもよいと感じている生徒もあり、英語に関する感覚の違いが見られる。

(3) 指導観

1学期はスピーキングの基礎となるリズム、イントネーション、発音などに焦点を当て基本練習を行ってきた。2学期も引き続き同様の練習を行なっているが、より英語の使用場面を意識させるためにスキットの表現場面を撮影し、相互評価を行なっている。今後は応用練習として、スピーチ、ディスカッション、演説などの場面を取り上げ、より実践的なリスニングおよびスピーキングの練習をする。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1 (本時)	新しい発音記号の導入およびスキットの音読訓練
2~3	スキットの運用訓練および表現活動の撮影
4	制作したスキットの鑑賞および評価

10. 本時案

(1) ねらい

- ① 日英の発想と発話表出の異同に気づかせる。
- ② スキットの音読および運用訓練を通して[ou]の発音に慣れさせる。
- ③ 本時まで制作・撮影したスキットに関して相互評価させる。

(2) 準備物

- ・『Pronunciation Power』Blackstone Multimedia Corporation ・リズムマシン
- ・『サキター家のアメリカ体験』大修館書店 ・ビデオカメラ ・"Post-it"

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導(○)と評価(◎)の留意点
導入	15分	①Greeting ②Rhythm Training ③Cultural Awareness through "Manga"	○リズムマシンを利用し、“英語舌”の warm upを図る。大きな声で読むよう激励する。 ◎取り組みの姿勢を観察評価する。 ○日本語の直訳によるmiscommunication に気づかせる。 ◎取り組みの姿勢を観察評価する。
展開	34分	①Introduction of Phonetic Alphabet [ou] ②Skit Training ・Listening + Q & A ・Repeating (& Shadowing) ・Reading Aloud in Pairs ・Body Language & Gestures ・Memorization of the Skit ③Watching VTRs of the Previous Skit	○『Pronunciation Power』を利用し、音声の確認、Sample Words、Comparative Words、Sentence Readingの訓練を行なう。 ◎取り組みの姿勢を観察評価する。 ○プレゼンソフトを活用し、スキットの導入を行なう。 ◎指名回答させて形成評価する。 ○個々のLL機器で音読活動をさせる。 ◎モニタリングしながら形成評価する。 ○モデルダイアログを聞きながら、場面に応じたgestureをさせる。 ◎取り組みの姿勢を観察評価する。 ○良い点・改善点を書かせ、次回スキット制作時に活かすよう助言する。 ◎取り組みの姿勢を観察評価する。 ◎VTRの内容について評価する。
まとめ	1分	①Announcement of the Following Lesson	○次時はスキットの撮影を開始することを伝達する。そして、撮影日までにペアによる音読・暗誦練習を徹底的に行なうよう助言する。

